

写真と年表で見る瀬棚の歴史

■ 維新前



▶ 明治初期の商家

享祿2年 (1529)

享祿5年 (1532)

元文6年 (1741)

文化3年 (1806)

文政5年 (1822)

元保4年 (1833)

弘化2年 (1845)

安政2年 (1855)

●セタナイ(今の瀬棚)でアイヌ民族と和人の戦が起きる。

●この頃、アイヌ民族は冬になると奥尻島へオットセイ漁に出稼ぎへ。

●ヤソベシ・チヨタンクロ兄弟が初めてセタナイに定住。

●兄弟は定住した場所をサントカリと称す。(今の本町1区)

●松前大島の噴火により津波が起きる。

●天明より寛政にかけてセタナイウタスツでニシン漁業が発達。

●幕府の「遠山金四郎」一行が巡視。太田から山道を越えセタナイに滞在。

●この頃、セタナイのアイヌ17戸、86人居住。

●この頃、しなの木より地藏尊が現れる。(文政年間)

●飢饉の奥羽地方より小舟で到着した2家族が移住。

●松浦武四郎(幕府の蝦夷地調査員)がセタナイまでを踏破。

●セタナイ地方は津軽藩の警衛地に決定。

■ 明治時代

明治3年 (1870)

明治6年 (1873)

明治10年 (1877)

明治11年 (1878)

明治12年 (1879)

明治13年 (1880)

●斗南藩から会津町へ5家族が移住。(翌年8家族移住)

●斗南藩士13戸は木材を集め存在川(ハバ川)に存在橋を架橋。

●ロシア軍艦アレウト号が瀬棚海岸で遭難。乗組員は救助され越冬。

●アレウト号の乗組員が帰国の際に浜中で再度遭難し、乗組員全員死亡。

●梅花都、蘭林寺で寺子屋を開始。

●平井伝一郎が清酒醸造の営業を開始。

●久遠・奥尻・太櫓・瀬棚四郡役所を久遠郡一艘瀬村に設置。

●戸長役場開庁。平井伝一郎が戸長になる。

●瀬棚学校が今の梅花都に開校。(2年制)

●瀬棚郵便局が三本杉に開局。



▶ 昔の祭典風景



▶ エシン漁全盛期に栄えた瀬棚の遊郭



▶ 昔の郵便局

▶ 会津町東部（現在の町5区付近）



▶ 国鉄瀬棚線工事（鉄橋工事）



■ 大正時代

大正7年（1918）
 大正8年（1919）
 大正9年（1920）
 大正10年（1921）
 大正12年（1923）

明治14年（1881）
 明治15年（1882）
 明治17年（1884）
 明治18年（1885）
 明治19年（1886）
 明治20年（1887）
 明治21年（1888）
 明治25年（1892）
 明治30年（1897）
 明治32年（1899）
 明治33年（1900）
 明治34年（1901）
 明治35年（1902）
 明治38年（1905）
 明治43年（1910）

- 瀬棚に初めて商店が開業。（それまでは行商）
- 山田常七が牧場を創設。
- 徳島県より23戸81人が最内沢に入植
- 徳島県より8戸35人が馬場川に入植
- 大野養蚕場より仕入れた春蚕により養蚕が始まる。
- 瀬棚郡漁業協同組合が設立
- 島歌郵便局が開局。
- この頃、瀬棚村で水稻の試作が成功。
- 馬場川の宮崎常蔵が2粒の裸麦で麦栽培を開始。（その後特産品に）
- 農耕、運搬に馬の使用が始まる。
- 瀬棚私設消防組合を設置（明治30年に公設）
- 函館、江差、久遠、瀬棚、奥尻の定期航路運行を開始。
- 電信線が久遠、太櫓を経由し瀬棚まで整備される。
- この頃、ニシンが豊漁（以後10年間）で須築への移住者が増加。（160戸）
- 日本女医第一号の「荻野吟子」が瀬棚で医院を開業。
- 新保幸吉が虻羅に袋澗を建設。
- 江差銀行瀬棚出張所が三本杉に新設。
- 梅花都、島歌、美谷、須築の各分校が独立。
- 2級町村となり瀬棚村となる。
- 瀬棚く国縫間で定期馬（ダンコマ）が運行開始。
- 瀬棚に初めて劇場が設立。
- 瀬棚く国縫間で乗合馬車が運行開始。
- この頃、世帯数1千103戸、人口7千528人。
- 瀬棚水力発電株式会社が馬場川に30kWの水力発電所を完成させる。
- 瀬棚く国縫間で乗合自動車が発行開始。
- 瀬棚出身の力士「三杉磯」が関脇へ昇進する。
- 町政施行で「瀬棚町」となる。
- 市街地で電話が開通する。

▶ 昔の葬式風景



▶ 会津町西部（本町3区付近）





▶ 映画館



▶ 開基100周年記念パレード



▶ 出征兵士を見送る瀬棚駅前

昭和時代

- 昭和2年 (1927)
- 昭和7年 (1932)
- 昭和12年 (1937)
- 昭和18年 (1918)
- 昭和22年 (1947)
- 昭和25年 (1950)
- 昭和29年 (1954)

昭和30年 (1955)

昭和32年 (1957)

昭和35年 (1960)

昭和36年 (1961)

昭和38年 (1962)

昭和41年 (1966)

昭和43年 (1968)

昭和48年 (1973)

昭和49年 (1974)

●初めてホルスタイン乳牛が導入される。(26頭)

●日本国有鉄道瀬棚線が全線開通する。

●茂津多岬灯台が完成点灯する。

●瀬棚森林組合が設立される。

●新制中学校が開校する。

●東瀬棚く美谷間でバス運行開始。

●瀬棚沖でスケソウ延縄漁船遭難6隻沈没。乗組員37人全員死亡。

●瀬棚小学校新校舎落成

●町議会が町村合併に賛成であることを知事に答申。

●太櫓村、瀬棚町、東瀬棚町合併促進協議会設置。

●太櫓村、瀬棚町、東瀬棚町の合併が町議会で否決。

●知事より瀬棚町、北檜山町の町村合併を勧告される。

●町村合併に対する公聴会を開催し、合併に反対する。

●商工会が創立される。

●瀬棚町でテレビ共同聴取開始。

●老人クラブが結成される。

●市街地簡易水道が給水開始される。

●瀬棚町の町章と町旗が制定される。

●第1回漁火まつり、花火大会が開催される。

●瀬棚出身の力士「大受」が大関へ昇進する。

●養護老人ホーム三杉荘が開所。

●瀬棚水族館が開館する。

●茂津多トンネルが開通する。

●せたな青少年旅行村が開村する。

●瀬棚く奥尻間フェリーが就航する。

●国鉄瀬棚線が廃止。代替バス運行。

平成時代

平成3年 (1991)

●ハンフォード市と姉妹都市を結ぶ。

道229号島牧村—瀬棚



▶ 国道229号茂津多トンネル開通



▶ 昔の瀬棚小学校上空より



▶ 瀬棚線廃止 (さよなら列車)

「さよなら列車」は

▶ 天皇皇后両陛下が被災地を視察



▶ 北海道南西沖地震では大きな被害が



- 平成5年 (1993)
- 平成6年 (1994)
- 平成7年 (1995)
- 平成8年 (1996)
- 平成9年 (1997)
- 平成10年 (1998)
- 平成11年 (1999)
- 平成12年 (2000)
- 平成13年 (2001)
- 平成14年 (2002)
- 平成15年 (2003)
- 平成16年 (2004)
- 平成17年 (2005)

- 北海道南西沖地震により大きな被害を受ける。
- 天皇・皇后両陛下被災地視察のため来町。
- 新横滝トンネル開通。
- 商工会青年部がサツポロフアクトリーで、「イカイカダービー」を開催。
- 第5回YOSAKOIソーラン祭りに「瀬棚気合一本!!」が初参加。
- 北部3町で携帯電話サービスが開始。
- 瀬棚町がインターネットにホームページを開設
- やすらぎ館がオープン。
- 国道229号第2白糸トンネル崩落事故が起こる。
- 新橋演舞場で講演の荻野吟子の生涯「命燃えて」観劇ツアーを実施
- 保健センターがオープン。
- 新年交礼会で地酒「吟子物語」発表会。
- 瀬棚町開基120周年
- 荻野吟子記念瀬棚医療センターがオープン。
- 茂津多林道が完成。
- 初めて大相撲「朝日山部屋」が瀬棚で夏合宿。(郷土後援会を設立)
- 茂津多岬灯台が改修され、日本一高い灯台に。
- 改築していた瀬棚保育所が完成。
- 夕陽が丘パークゴルフ場が完成。
- 教育の森が完成。
- 高速インターネット回線ADSL回線が開通。
- 檜山北部4町合併協議会を設置。(その後、今金町が離脱)
- 日本初の洋上風車「風海鳥」が本格稼働。
- 檜山北部3町合併協議会を設置(事務局を北檜山町に設置)
- 生活支援ハウス「かざみどり」がオープン。
- 瀬棚町が有機酪農と有機農業の推進特区に認定される。
- 新町名称が「せたな町」に決定。
- 議会で合併が議決される。
- グリーンパワー瀬棚が大型風車6基の建設を開始。
- 瀬棚町が閉町
- 大成町、瀬棚町、北檜山町が合併し新町「せたな町」が誕生。

▶ 日本初の洋上風車



国道229号第2白糸トンネル崩落事故



▶ 昔の国道 (本町7区付近)





▶ 映画館



▶ 開基100周年記念パレード



▶ 出征兵士を見送る瀬棚駅前

昭和時代

- 昭和2年 (1927)
- 昭和7年 (1932)
- 昭和12年 (1937)
- 昭和18年 (1918)
- 昭和22年 (1947)
- 昭和25年 (1950)
- 昭和29年 (1954)

- 昭和30年 (1955)

- 昭和32年 (1957)

- 昭和35年 (1960)

- 昭和36年 (1961)

- 昭和38年 (1962)

- 昭和41年 (1966)

- 昭和43年 (1968)

- 昭和48年 (1973)

- 昭和49年 (1974)

平成時代

- 平成3年 (1991)

● 初めてホルスタイン乳牛が導入される。(26頭)

● 日本国有鉄道瀬棚線が全線開通する。

● 茂津多岬灯台が完成点灯する。

● 瀬棚森林組合が設立される。

● 新制中学校が開校する。

● 東瀬棚く美谷間でバス運行開始。

● 瀬棚沖でスケソウ延縄漁船遭難6隻沈没。乗組員37人全員死亡。

● 瀬棚小学校新校舎落成

● 町議会が町村合併に賛成であることを知事に答申。

● 太櫓村、瀬棚町、東瀬棚町合併促進協議会設置。

● 太櫓村、瀬棚町、東瀬棚町の合併が町議会で否決。

● 知事より瀬棚町、北檜山町の町村合併を勧告される。

● 町村合併に対する公聴会を開催し、合併に反対する。

● 商工会が創立される。

● 瀬棚町でテレビ共同聴取開始。

● 老人クラブが結成される。

● 市街地簡易水道が給水開始される。

● 瀬棚町の町章と町旗が制定される。

● 第1回漁火まつり、花火大会が開催される。

● 瀬棚出身の力士「大受」が大関へ昇進する。

● 養護老人ホーム三杉荘が開所。

● 瀬棚水族館が開館する。

● 茂津多トンネルが開通する。

● せたな青少年旅行村が開村する。

● 瀬棚く奥尻間フェリーが就航する。

● 国鉄瀬棚線が廃止。代替バス運行。

● ハンフォード市と姉妹都市を結ぶ。

道229号島牧村—瀬棚



▶ 国道229号茂津多トンネル開通



▶ 瀬棚線廃止 (さよなら列車)

「さよなら列車」は



▶ 昔の瀬棚小学校上空より

▶ 天皇皇后両陛下が被災地を視察



▶ 北海道南西沖地震では大きな被害が



平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	平成14年 (2002)	平成13年 (2001)	平成12年 (2000)	平成11年 (1999)	平成10年 (1998)	平成9年 (1997)	平成8年 (1996)	平成7年 (1995)	平成6年 (1994)	平成5年 (1993)
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

- 北海道南西沖地震により大きな被害を受ける。
- 天皇・皇后両陛下被災地視察のため来町。
- 新横滝トンネル開通。
- 商工会青年部がサツポロフアクトリーで、「イカイカダービー」を開催。
- 第5回YOSAKOIソーラン祭りに「瀬棚気合一本!!」が初参加。
- 北部3町で携帯電話サービスが開始。
- 瀬棚町がインターネットにホームページを開設
- やすらぎ館がオープン。
- 国道229号第2白糸トンネル崩落事故が起こる。
- 新橋演舞場で講演の荻野吟子の生涯「命燃えて」観劇ツアーを実施
- 保健センターがオープン。
- 新年交礼会で地酒「吟子物語」発表会。
- 瀬棚町開基120周年
- 荻野吟子記念瀬棚医療センターがオープン。
- 茂津多林道が完成。
- 初めて大相撲「朝日山部屋」が瀬棚で夏合宿。(郷土後援会を設立)
- 茂津多岬灯台が改修され、日本一高い灯台に。
- 改築していた瀬棚保育所が完成。
- 夕陽が丘パークゴルフ場が完成。
- 教育の森が完成。
- 高速インターネット回線ADSL回線が開通。
- 檜山北部4町合併協議会を設置。(その後、今金町が離脱)
- 日本初の洋上風車「風海鳥」が本格稼働。
- 檜山北部3町合併協議会を設置(事務局を北檜山町に設置)
- 生活支援ハウス「かざみどり」がオープン。
- 瀬棚町が有機酪農と有機農業の推進特区に認定される。
- 新町名称が「せたな町」に決定。
- 議会で合併が議決される。
- グリーンパワー瀬棚が大型風車6基の建設を開始。
- 瀬棚町が閉町
- 大成町、瀬棚町、北檜山町が合併し新町「せたな町」が誕生。

▶ 日本初の洋上風車



国道229号第2白糸トンネル崩落事故



▶ 昔の国道 (本町7区付近)

